ロキサデュスタットによるTSH低下に投与量が影響した1症例

医療法人衆和会　長崎腎病院

○増田直子　渡部さゆり　小嶺真耶　矢野未来　江藤りか　舩越　哲

【背景】
ロキサデュスタットは 2019 年に HIF-PH 阻害薬として発売され、腎性貧血治療薬として汎用されている。また、2021 年以降、ロキサデュスタットによる TSH 低下症例報告が散見される。
【目的】
ロキサデュスタットの投与量が TSH 低下に与える影響について解析する。
【方法】
症例は、60 歳男性で透析歴は 4 年、2021 年 9 月から腎性貧血にエナロデュスタットを投与後、2022 年 6 月よりロキサデュスタットへ変更となった。ロキサデュスタットの投与量と TSH、FT4、Hb の推移を後ろ向きに調査する。
【結果】
エナロデュスタット投与中は、投与量に関わらず、TSH は低下しなかったが、ロキサデュスタットに変更後は、週当たりの投与量 200 ㎎から開始し（開始時 TSH：0.758 μU/mL）、300 ㎎に増量後に急激な TSH の低下（0.211）をきたした。その後ロキサデュスタットを減量すると、TSH は 0.621 まで回復した。
【考察】
ロキサデュスタットによる TSH の低下は投与量の影響があることが示唆された。本症例は投与量を減量することにより TSH が回復したが、ロキサデュスタットを投与する際は、定期的な TSH の測定と観察・評価が必要と思われる。